とではなく、耐震補強と新築校舎で統合する２段階方式で対応することとされました。また、再編計画によって教育条件の変化という課題もあり、小・中一貫制や自由校区制などの特別な教育よりも、もっと大事な基礎学力をつけることに重点を置き、集団教育の良さが生かされる知識、体験、学習習慣を身につけさせることを基本とし、統合も大事であるが、教育の中身のほうが大事であるとの考えでした。今後、学校再編を検討する際は、何よりも地域住民が十分納得して、子どもの教育を託せる環境づくりが重要であると感じました。

津田小学校（さぬき市）

産業経済委員会

本委員会は、10月1日から4日までの4日間、岡山県新見市、和歌山県東牟婁郡（ひがしむろぐん）那智勝浦町、同串本町において、行政調査を行いました。

新見市は、日本最古の蔓牛（つるうし）「千屋牛」の産地として知られ、松浦市と同じく千頭増頭事業に取り組んでいます。将来の和牛振興を見据えて多頭化飼育、育成飼料自給率向上、放牧等の生産面から、ブランド化を目指したインターネットでのPRや販売までを大きな柱に取り入れられていました。また、ピオーネの地域ブランド化を目指し、生産振興に力を入れ、産地拡大を図っていました。パッションフルーツ生産に取り組んでいる松浦市においても、今後の事業推進の参考となりました。

那智勝浦町は、定住体験、林業・農業体験、実習等の新規定住者への支援を行うため、地元有志が参画した地域振興推進委員会を結成し、受け入れ側の組織化を図っています。また、山村生活体験や農業実習の拠点となる町立「籠ふるさと塾」や新規定住者の住宅となる「ふるさと定住促進住宅」の整備、「中山間地域等直接支払事業」を活用して農業に従事する新規定住者の取り組みを支援しています。過疎化が進む限界集落で、全国から多くの若い人が「籠ふるさと塾」で研修を行い、家族とともにしっかりとした考えの中で、地域に根付いて定住し、地域を守っている姿勢に感心するとともに、あらためて「地域おこし」を考えさせられました。

串本町は、漁業が盛んで、水産業は町の基幹産業となっています。町の基本構想においても、水産業は観光業と並んで中心に位置付けられており、養殖マダイやカツオのブランド化や、体験漁業や漁業者の家への民泊等による修学旅行の誘致、また地元商工会は、魚のトビウオを活かした地域ブランドの確立に向けて取り組みを行っています。これらの水産業をPRするため、「強い水産業づくり交付金」を活用し、平成19年5月に地元の木材を使った串本町都市交流海洋施設「水門まつり」が整備され、魚介類を中心とした展示・販売、町の観光・情報コーナー、地元のマグロ等の魚介類を中心としたレストランを指定管理者が運営しています。

串本町

また、串本町大島は、本土串本の東南約1.6㎞の沖合に位置し、平成11年9月の「くしもと大橋」開通後は、年間の観光客数が10倍にまで達しました。歴史と自然を活かしたまちづくりや、地元の木材を使った施設、また、地元のマグロ魚介類を食材としたレストラン等、鷹島肥前大橋完成前に、元寇の歴史的遺産や自然、そして、フグまたは今後養殖されるマグロ等、地元の特産品を活かした施設整備を切望します。

近畿大学大島実験場では、海上のマグロ養殖施設を見学しました。親魚から採卵し、人工ふ化させて稚魚から親魚まで育て、次の世代を生み出していく完全養殖は、水産資源の枯渇問題の解消に大きな期待を持つことができました。

近畿大学マグロ養殖施設（串本町）